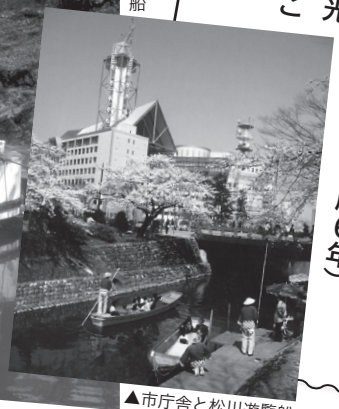
# 観光的魅力で、富山を　コンベンション都市に

**観光都市としての成熟度が、コンベンション誘致の成否をにぎるといわれる。それは主催者側が開催地を決定する際、利便性と観光的魅力を重視するためだ。国から「国際会議観光都市」に認定（平成6年）されている富山市。観光の魅力を高めることこそ、急務といえよう。**

◀水の都・富山の歴史を伝える松川遊覧船


▲市庁舎と松川遊覧船

## サンアントニオ（米）成功の秘密

サンアントニオは、松川と同じような川を延長し、そこにユニークなコンベンションセンターを造った。ホテルから会場まで、リバータクシーと呼ばれる舟に乗っていくこともできる。パセオ・デル・リオと呼ばれる地帯の川沿いには、ホテル、レストラン、カフェテラスが立ち並び、イベントやショーも行われるなど、アフターコンベンションも充実している。南部テキサス州の地方都市でありながら人口は20年間に20万人も増えた。観光客も年間１４００万人も訪れる。今やアメリカの８大都市の一つにまで成長したサンアントニオだが、その飛躍的な発展の鍵は、１本の小さな川の開発にあったのだ。

## 観光的魅力こそ成功の〝鍵〟

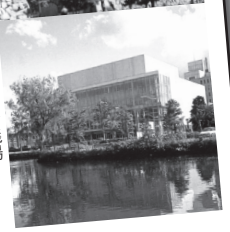
街に〝人を呼ぶ〟という点で、観光とコンベンションは緊密な関わりがある。雑喉徹氏（元神戸市経済局次長）は次のように分析する。

**―観光面から見た、コンベンションとの関わり―**

①コンベンション参加者は、その数だけ観光客の増加とみなせる、またみなせるよう努力が必要。

②観光関連産業が活性化し、産業の連絡体制がシステム化

▶富山城・郷土博物館


▶富山国際会議場

いよいよ富山城が完成します。国際会議場で会議や大会が終わった後、出席者はアフターコンベンションを楽しみたいんですね。しかし、順路を作っておかないと、どこへ行ったらいいかわからない。観光名所やイベントを会議場で告知していただけば、どこへ行けば何があるのかすぐわかります。国際会議場から郷土博物館、佐藤美術館でこんなことをやっている、松川では遊覧船に乗れる、こういう繋がりを国際会議場が行えば、コンベンション客の利便性を高めていけると思います。

**庄司康信さん**
富山大手町コンベンション㈱ 専務取締役

**小川輝久さん**

（財）富山コンベンションビューローチーフ・マネージャー

全国からコンベンションを誘致する際、観光都市としての蓄積度がどれだけあるかが一番重要です。もちろん、開催する施設の能力があるか、交通アクセスはどうか、物価はどうか、会場経費はどうかとか、色んな面から総合的に考えて、開催地の総合力が問われるのですが、観光的魅力はかかせません。富山の魅力を高め、富山らしさを売っていきたいと思っています。

**光との関わり**

①観光都市としての成熟度が、コンベンション誘致の成否をにぎる。（主催者側が開催地を決定する際、利便性と観光的魅力を重視するため）

観光の魅力を高めることが、成功の大きな鍵なのである。

## 〝国際会議観光都市〟の姿

コンベンション都市の成立要件として、梅澤忠雄氏は次の五つを挙げている。（『コンベンション都市戦略』より）

(1)ある程度の収容力をもつ、宿泊施設とコンベンション開催可能施設があること。

(2)交通条件がよいこと（その都市へのアクセスという面と、都市内での移動という両面がある）

(3)都市としての魅力があること（歴史性、文化性、質の高い都市環境、歩いて楽しい街、豊かな観光資源など）

(4)ある程度の都市機能集積があること（中枢管理機能、商業・業務・医療・学術・通信等）

(5)住民のホスピタリティ（来訪者に対するもてなしの心、地元における支援体制の充実等）

このように、真のコンベンション都市となり得るためには、ハード面とソフト面の充実が必要不可欠である。コンベンションは〝都市そのものを売る〟という都市戦略へと成長しているのだ。

観光都市として成熟がなされた時、われわれは初めて自分の街を誇らしく話すことができるだろう。

「富山ってどんな街ですか？」

「そうね。〝東洋のベニス〟って皆が呼んでるよ。それに〝世界で最も美しい街〟とも…」GL

**ー コンベンションから見た観光 ー**

する。→観光客受入れ体制の整備につながる。

③コンベンション都市を模索することによって、都市の先端イメージを高め、それが観光の誘因となる。

④コンベンションに参加しただけの人にも都市名を売り込むこととなり、再度の来訪をうながす機会となる。